■三好長慶 武将。教養と武力で將軍義輝や主家細川氏を抑えて畿内を制圧したが、精神に異常をきたして、没した。

みよしながよし

..... 1522= 阿波三好郡芝生城で、管領細川家の家宰で阿波守護代の名族三好元長の嫡男に生まれた。名は範長。

將軍足利義澄を擁立して覇権を握っていた京兆家細川政元に子が無かったことから、九条家から澄之、分家から高国、阿波守護家から澄元の三派に分裂していたが、この前年、政元が澄之派に暗殺されると、澄之を滅ぼして澄元に京兆家を継がせた高国が、細川家の混乱に乗じて、大内義興が介入してきたため、澄元を見限ったことから、京都に基盤を持つ高国派と、阿波に基盤を持つ澄元派の戦争が始まり、摂津の領主たちも分裂するなか、前々年に、曾祖父三好之長が細川高国によって自害させられるなど、<戦国時代>の動乱による一家の苦難の中に育ち、

天王寺合戦・1531= 9歳：

大和一向一揆1532=10歳：父元長が、本願寺証如と結んだ細川晴元に攻められて自害したため、阿波に逃れて家督を継ぎ、
..... 1533=11歳：その後対立した証如と晴元の和睦を仲介する役として、幼少ながら三好軍を率いて畿内戦線に登場、もともとの家柄故、父を討った管領で摂津守護の細川晴元に執事として仕えることになるが、

..... 1539=17歳：軍勢を率いて上洛すると、早速、騒動を起こし、將軍義晴の調停により和睦して、占領していた芥川山城を出て、摂津下国を抑える越水城に入り、本願寺証如より祝賀を受け、摂津半国守護の地位を獲得、
..... 1540=18歳：晴元派の丹波八上城主波多野秀忠の娘を娶り、在地の松永久秀・長頼兄弟らを起用して体制を固め、

鉄砲伝来・ 1543=21歳：細川高国の跡を継ぐとして、細川氏綱が挙兵して、晴元と対立すると、早くから教養人として知られ、とくに連歌に秀でて、宮廷の歌会などにも参列、覇権を握る頃には、後奈良天皇から宸筆の古今和歌集を賜るまでになり、キリスト教布教も黙許するなど、新文化も理解していた。

足利義輝將軍1546=24歳：歴代三好本宗家の官途“筑前守”を名乗り、名を長慶に改めて、父の仇晴元からの独立を決意、
勘合船終・ 1547=25歳：とりあえずは晴元側にあつて、氏綱側を破って実力を示し、晴元が、和睦後の処理を誤って、
上杉謙信登場1548=26歳：寵愛する三好宗三(政長)一派が摂津の有力国人池田信正と敵対すると、同族の宗三を討つことを名分に

ザビエル来日1549=27歳：河内守護代遊佐信教の娘と再婚して同盟関係を結び、*宗三を摂津に攻め滅ぼすと、晴元と將軍足利義輝を京都から追放、氏綱を擁して入京し、摂津国主として畿内最強の実力者になるが、

織田信長登場1551=29歳：この間、義輝の画策で、暗殺計画があるも免れるが、義父遊佐信教が暗殺されている。
大友布教許可1552=30歳：晴元の義父で主戦派の六角定頼が死去、後を継いだ承禎が方針転換、*和睦が成立して、再び義輝を將軍に迎えると、將軍直臣の奉公衆に続いて御供衆に任じられ、管領細川氏綱に代わって権力を振るい、山城・摂津・河内・大和・和泉・淡路・阿波・讃岐の8か国を支配下に収める、天皇にも認められるまでになり、

川中島の戦始1553=31歳：従四位下に叙せられる。丹波で、和睦に反対したかつての義父の子波多野元秀が挙兵、長慶方の守護代内藤国貞が戦死、居城八木城落城の危機に、娘婿になっていた松永長頼が急遽城主になって死守するなど、*晴元側の反攻が止まれないため、ついに義輝を近江国朽木に追い、名実ともに畿内の覇者になって、摂津国芥川城を居城としたが、この間に、実務に長けて、各界との間の情報を握るようになった松永久秀が台頭、

..... 1558=36歳：久秀の力で、義輝と和睦して京都を放棄した頃から、三好政権の裁判権は久秀に掌握されて行くなか、1559=37歳：なお領国拡大をめざして、久秀らをして、集中的に、河内、大和に侵攻させ、

桶狭間の戦・ 1560=38歳：相伴衆に列し、修理大夫に任ぜられ、河内、大和を平定して配下に収め、河内国飯盛城に居城を移すが、政事に倦むようになるとともに、病身の上、精神に異常をきたし、

大村純忠受洗1563=41歳：*久秀のために長男義興が毒殺され、第十河一存の子熊王丸(義継)を迎えて養嗣子とするも病死、義賢ら名将を戦死で失い、久秀の密告で腹心の安宅冬康まで殺害して、実権を失い、
川中島の戦終1564=42歳：飯盛城で病没した。